

「ごみと資源の分け方・出し方 令和6年度版 収集カレンダー」を全戸配布しました



2月6日(火)から2月26日(月)までの間、「ごみと資源の分け方・出し方 令和6年度版 収集カレンダー」を全戸配布しました。表紙は、薄茶色です。

従来の上綴じから左綴じに変更し、最終ページは切り離し可能なカレンダーとなっています。

この機会に、もう一度ごみと資源の分別をご確認の上、正しい分け方・出し方にご協力をお願いいたします。

インターネットからも内容が見られるよ!



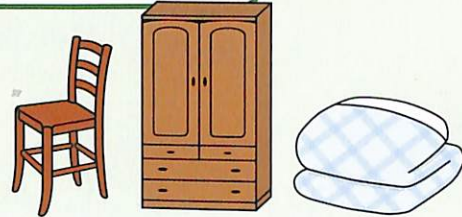
インターネットはコチラ



問 ごみ減量対策課・事業計画係

粗大ごみは日にちに余裕をもってお申し込みください

引越しシーズンのため、粗大ごみの申込件数が大変増えており、お申し込みから収集までに2~3週間程度お待ちいただく場合があります。早めのお申し込みをお願いします。お申し込みは、24時間受付のインターネットが便利です。



粗大ごみ受付センター

- インターネット (24時間受付)
<https://ecolife.e-tumo.jp/kankyo-suginami-tokyo-u/>
- 電話 (午前8時~午後7時) : 03-5296-5300
- FAX (24時間受付) : 03-6880-5852

インターネット受付はコチラ



ご自分で持ち込みたい方

(予約制、日曜日のみ。午前9時~午後4時)

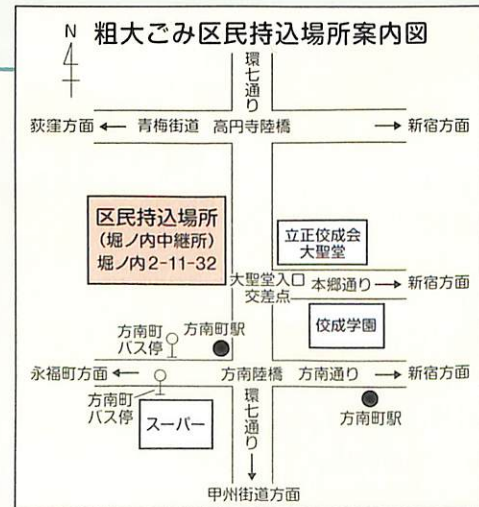
粗大ごみ受付センターへ電話またはFAXで「持ち込み希望」とお伝えください。

(インターネットでのお申し込みはできません。)

※1回につき5点まで、1点につき一律400円かかります。

「有料粗大ごみ処理券」を購入し、貼り付けて以下の場所へ直接お持ち込みください。

- 区民持込場所 (堀ノ内中継所)
堀ノ内 2-11-32



問 ごみ減量対策課・杉並清掃事務所



ごみ減量で地球を守ろう!

東京港内の新海面処分場は、23区の最後の埋立処分場です。長く使うためにも、地球の温暖化を防ぐためにも、一人ひとりができることから始めてみませんか。

- ◆ 令和5年度 家庭ごみ排出状況調査を実施しました
- ◆ プラスチックを知らおう! Vol.6
- ◆ 生ごみのうち、食品ロスはどのくらいあるの?

発行日 令和6年3月5日
編集・発行 杉並区環境部ごみ減量対策課・杉並清掃事務所・方南支所

年4回(6・9・12・3月)各5日発行

令和5年度 家庭ごみ排出状況調査を実施しました ~プラスチック使用製品廃棄物の分別・回収に向けた取組~



家庭ごみ排出状況調査とは、各家庭から排出された可燃ごみ・不燃ごみの内容等を調査・分析し、今後のごみ減量・リサイクル推進への基礎資料とするためのものです。また、今回の通常の組成調査に加え、区内約100か所の集積所を対象とし、製品プラスチック※1の新たな資源化を進める際の検討資料とするための調査を、重点的に実施しました。

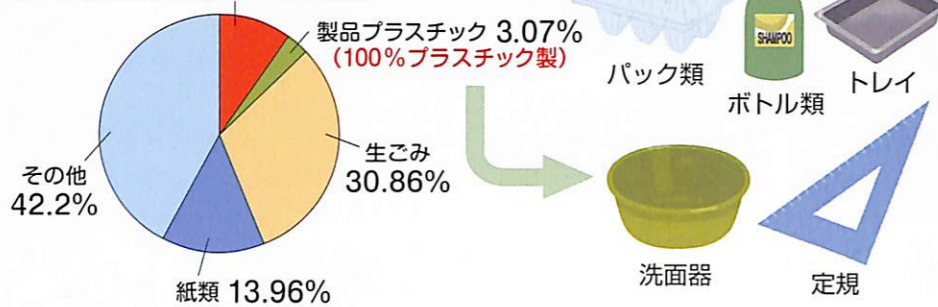
※1 製品プラスチック: 「プラスチック製容器包装」、「ペットボトル」以外のプラスチックでできている製品

続きは中面へ!

プラスチックを知らう! Vol.6 (可燃ごみに含まれるプラスチック)

令和5年度家庭ごみ排出状況調査結果(可燃ごみ)

プラスチック製容器包装 9.91%
(そのうちリサイクル可 1.76%)



可燃ごみの中に、リサイクル可能なプラスチック製容器包装が、1.76%含まれていることが分かり、令和4年度の可燃ごみ量から推計すると1,540t※ もの量が混入していたことになります。

1,540tは
アフリカゾウ
約300頭分に
相当するよ!



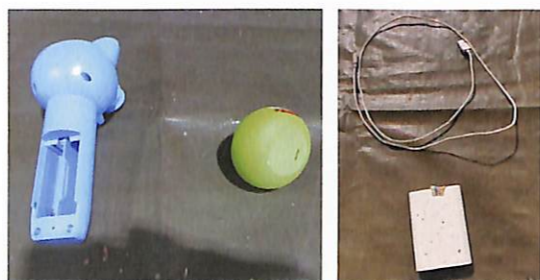
不燃ごみで出すべき小型家電類が、可燃ごみの中に82t※ 混入されていることが分かりました。これらは火災事故につながる危険性があるため、正しく分別することが大切です。

※令和4年度可燃ごみ収集量実績に対する推計

可燃ごみ中の小型家電類混入状況

その他の混入物(実例)

- 手持ち式扇風機
- プラスチック製の時計
- 電動歯ブラシ
- 懐中電灯 など



おもちゃ

モバイルバッテリー

そこで

火災事故をなくそう!

ごみ収集車や処理施設で発生する火災事故は、中身の残ったスプレー缶やカセットボンベ、ライターなどに加え、モバイルバッテリーや小型家電などに使用される小型充電式(二次)電池によるものが増加しています。

火災事故を未然に防ぐためにも正しい分別にご協力をお願いいたします。

※小型充電式(二次)電池の回収拠点場所はこちらをご覧ください。



小型充電式(二次)電池

【対象電池】

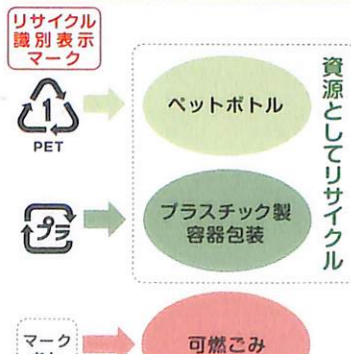
このマークが目印です!

回収ボックス

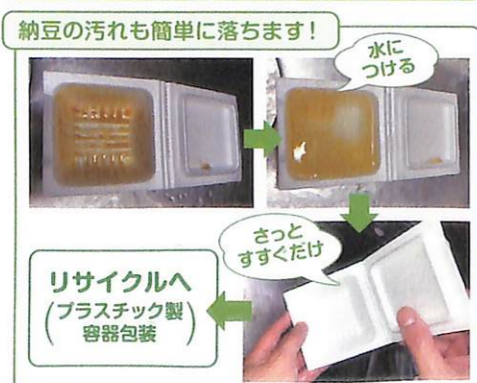


さらなるごみ減量・再資源化に向けて...

正しく分別しよう



洗って出そう



プラを使わない減らす工夫をしよう



問 ごみ減量対策課・事業計画係

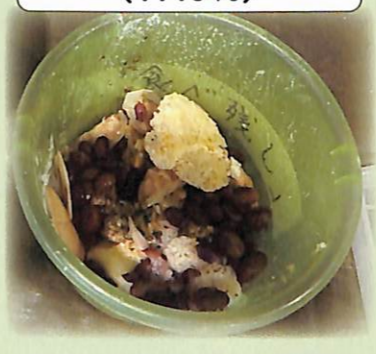
生ごみのうち、食品ロスはどのくらいあるの?

今回の調査では、可燃ごみの約3割を占める生ごみについて、「直接廃棄」「食べ残し」「不可食部」にわけ、重さをはかり、割合を出しました。その結果、食品ロスにあたる「直接廃棄」は21.6%、「食べ残し」は17.0%で、生ごみの約40%となることになりました。

直接廃棄 5,861t※ (21.6%)



食べ残し 4,606t※ (17.0%)



不可食部 16,647t※ (61.4%)



※令和4年度可燃ごみ収集量実績に対する推計

食品ロスの廃棄処理には、多額の費用がかかり、処理することで発生する二酸化炭素は、地球温暖化の原因となっています。環境のためにも食品ロスの削減が必要です。

食品ロスは、「買いすぎない、作りすぎない、食べ残さない」という、3つの「ない」で減らすことができます。また、「フードドライブ」への提供や「食べきりレシピ」の活用により削減できます。

「もったいない」を心がけ、身近なところから食品ロスを減らしていきましょう。

食品ロスを減らすための3つの「ない」

- 1 買いすぎない** (**) 買い物に行く前に冷蔵庫をチェック!
- 2 作りすぎない** (**) 食べきれる量だけ作りましょう!
- 3 食べのこさない** (**) 早めにおいしく食べきりましょう!

フードドライブ

区では、家庭で使いきれない食品を集め、福祉団体や施設などに提供しています。詳細は区ホームページをご覧ください。



食べきりレシピ

区ホームページでは、食材を無駄にしない「食べきりレシピ」を紹介しています。ぜひ、ご家庭で実践してみてください。



問 ごみ減量対策課・管理係